

第29号

奈良 国立博物館 だより

平成11年 4・5・6月



特別展

聖と隠者

山水に心を澄ます人々

4月27日(火)～5月30日(日)

東新館・西新館

平常展

仏教美術の名品

4月1日(木)～6月30日(水)

本館

休館日：月曜

(ただし5月3日は開館し、6日が休館)

開館時間：9時～16時30分

(入館は16時まで)

金曜は9時～20時

(入館は19時30分まで)

〔写真解説〕

国宝 明惠上人樹上坐禪像 (高山寺)

紙本著色 鎌倉時代 縦145.0cm 横59.0cm
明恵上人は鎌倉時代の高僧。これは明恵が高山寺の裏山の松に坐って瞑想する情景を描いたもの。根元には足駄が置かれ、香炉と念珠が枝に懸けられている。上方では小鳥が遊び、栗鼠が小首をかしげている。

(特別展「聖と隠者」より)

特別展

いじり いんじや

聖と隠者 山水に心を澄ます人々

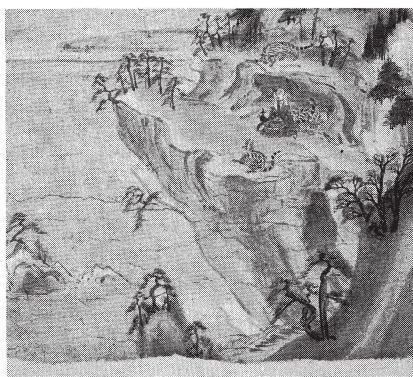
4月27日(火)～5月30日(日) 東新館・西新館

都市や寺院を離れて山林に住み、仏道修行に励んだり詩歌の制作に打ち込むことは、日本の長い歴史を通じて常に重要視され、美術や文学の主要なテーマとなって、多くのすぐれた作品を生み出してきました。この展覧会は、①山の仙人 ②山林の修業者 ③高僧たちの姿 ④隠者たちの面影 ⑤書斎とその周辺 ⑥寂境の神仏の6つのテーマのもとに、奈良時代から室町時代にかけての絵画作品を中心に、書跡・彫刻・工芸の名品も集め、中国を視野に入れつつ、自然のなかに生きる人間の姿を見つめ、先人の求めた世界を深く味わう機会とします。

出陳総数 143件

主な出陳品

●海磯鏡（東京国立博物館）、●千手觀音像（東京国立博物館）、●仏功德薄繪經箱（藤田美術館）、役行者像（クリーブランド美術館＝米国）、山景文博（国立中央博物館＝韓国）、●葡萄唐草文染革（東大寺）、●平家納経（厳島神社）、●扇面法華經（四天王寺）、●華嚴宗祖師繪伝（高山寺）、●北野天神縁起（北野天満宮）、●信貴山縁起（朝護孫子寺）、神於寺縁起絵巻断簡（サンフランシスコ、アジア美術館＝米国）、●明惠上人樹上坐禅像（高山寺）、●一遍聖繪（清淨光寺・歡喜光寺）、●兼好家集稿本（前田育徳会）、●周茂叔愛蓮図（文化庁）、●山水屏風（京都国立博物館）、●溪陰小築図（金地院）、●山水図（奈良国立博物館）、●山水図（高桐院）、●柴門新月図（藤田美術館）、●天神図（古熊神社）



●華嚴宗祖師繪伝〈部分〉(高山寺)



●海磯鏡（東京国立博物館）



●柴門新月図〈部分〉(藤田美術館)

平常展

仏教美術の名品 本館

従来は、彫刻・絵画・書跡・工芸品・考古遺品のジャンル別展示でしたが、4月1日(水)からテーマ別の展示に変わります。奈良の美術、阿弥陀浄土と觀音・地蔵信仰、密教美術、インド・中国・韓国の彫刻、本地垂迹の世界、古代の伽藍、釈迦・法華經の美術、禪の美術というテーマのもとに、仏像・神像・仏画・絵巻・経巻・仏具・莊嚴具・瓦・経塚出土品などが並びます。「平常展」といっても、国宝や重要文化財を多く含む仏教美術の名品が展示されており、見応えのあるものです。展示替があり、展示品も少しづつ変わっていきます。どうぞ御覧ください。



◎西大門勅額（東大寺）

一、山の仙人

◎海磯鏡（東京国立博物館）、◎光背〈二月堂本尊付属〉（東大寺）、◎十二天像〈火天〉（西大寺）、◎十二天像〈火天〉（当館）、◎千手觀音像（東京国立博物館）、◎華嚴五十五所繪卷（東大寺）、◎華嚴五十五所繪〈勝熱婆羅門〉（東大寺）、◎法華經寶塔曼荼羅卷第五（立本寺）、◎法華經卷第五（香川県教育委員会）、◎法華經并開結〈提婆品〉（金剛峯寺）、◎法華經并開結卷第五（浅草寺）、◎仏功德薄繪経箱（藤田美術館）、役行者像（米国・クリーヴランド美術館）、役行者像（奈良・福住区）、役行者像（当館）、神於寺縁起絵巻断簡（額川美術館）、◎法道仙人像（一乗寺）

二、山林の修行僧

山景文傳（韓国・国立中央博物館）、◎御製秘藏詮卷第一・四（南禅寺）、◎葡萄唐草文染章（東大寺）、◎法華經宝塔曼荼羅卷第四（立本寺）、法華經曼荼羅第四幅（当館）、◎法華經卷第一・八（香川県教育委員会）、◎法華經并開結〈觀普賢經〉（浅草寺）、◎法華經并開結〈觀普賢經〉（金剛峯寺）、◎法華經并開結〈平家納経〉序品・法師功德品・神力品（写真）・勸発品（厳島神社）、◎法華經并開結〈人記品・提婆品〉（慈光寺）、法華經（個人蔵）、◎辟邪絵〈毘沙門天〉（当館）、◎扇面法華経冊子〈無量義経〉（四天王寺）、◎九品來迎図〈上品上生、上品中・下生〉（龍上寺）、◎阿弥陀二十五菩薩來迎図（福島県立博物館）、阿弥陀二十五菩薩來迎図（弘法寺）、◎華嚴五十五所繪〈觀自在菩薩〉（東大寺）、◎六角厨子（法隆寺）、春日補陀落山曼荼羅（根津美術館）

三、高僧たちの姿

絵因果経断簡（東京国立博物館）、◎華嚴宗祖師絵伝〈元曉経卷第一〉（高山寺）、行基菩薩像（華林寺）、◎高野大師行状図繪卷第一・六・九（白鶴美術館）、釈教三十六歌仙絵断簡〈弘法大師〉（大和文華館）、◎法華經（序品）（善通寺）、弘法大師像（福岡市博物館）、◎性靈集〈日本書紀紙背〉（当館）、比叡山東塔絵図（京都国立博物館）、◎北野天神縁起巻第七（北野天満宮/写真）、◎松崎天神縁起巻第三（防府天満宮）、◎日本往生極楽記（天理大学附属天理図書館）、◎慶滋保胤書状（東京国立博物館）、性空上人像（談山神社）、増賀上人像（談山神社）、◎信貴山縁起（朝護孫子寺）、神於寺縁起絵巻断簡（米国・サンフランシスコ・アジア美術館）、◎融通念仏縁起（安楽寺）、◎西行物語絵巻（萬野美術館）、西行物語絵巻（サントリー美術館）、山家心中集（妙法院）、◎方丈記（大福光寺）、◎閑居友（前田育徳会）、◎法然上人繪伝巻第三・十一・十六（知恩院）、◎拾遺古德伝絵巻第八・九（常福寺）、◎明惠上人像〈樹上坐禪像〉（高山寺）、明惠上人像〈山中の御影〉（高山寺）、◎高山寺絵図（神護寺）、解脱上人像（唐招提寺）、◎笠置曼荼羅（大和文華館）、◎一遍聖経巻第一・二・五・九（清淨光寺・歡喜光寺）、徒然草〈光広本〉（国立公文書館）、◎兼好家集稿本（前田育徳会）、◎清涼法眼禪師像・雲門大師像〈馬遠筆〉（天龍寺）、◎洞山禪師図〈岳翁藏丘筆〉（静嘉堂）、徳聰禪師像（個人蔵）、中峰明本像〈樹下坐禪像〉（慈照院）、◎大覺禪師像〈経行像〉（建長寺）、◎復庵宗己像〈経行像〉（法雲寺）、◎聖一國師像〈岩上像〉（東福寺）、◎夢窓国師像〈無等周位筆〉（妙智院）、◎大道一以像（当館）、◎大通禪師像（佛通寺）、◎一休宗純像〈梅花像〉（真珠庵）

四、隠者たちの面影

採薇図〈伝李唐筆〉（藤井斉成会有鄰館）、賢聖瓢壺（宮内庁三の丸尚蔵館）、扇面画帖〈商山四皓図その一、その二〉（当館）、竹林七賢図〈雪村筆六曲屏風〉（畠山記念館）、◎陶弘景聴松図（山梨県立美術館）、輞川図〈唐棣筆〉（京都国立博物館）、◎白楽天像（個人蔵）、◎白氏文集巻第三・四（京都国立博物館）、林和靖図〈小島亮仙筆〉（東京芸術大学大学美術館）、◎周茂叔愛蓮図〈狩野正信筆〉（文化庁）、◎維摩居士像（京都国立博物館）、◎維摩居士像〈文清筆〉（大和文華館）、◎柿本人麿像（常盤山文庫）、柿本人麿像（兵庫県立歴史博物館）、◎牡丹花肖柏像（東京国立博物館）、◎伊勢物語絵巻（和泉市久保惣記念美術館）、◎本朝文粹巻第十二（宝生院）

五、書齋とその周辺

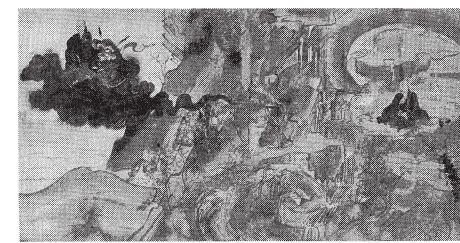
◎伯牙彈琴鏡（東京国立博物館）、◎山水屏風（京都国立博物館）、◎山水屏風（醍醐寺）、屏風土代（宮内庁三の丸尚蔵館）、伊勢集断簡（大和文華館）、◎溪陰小築図（金地院）、山莊図（正木美術館）、◎三益齋図（静嘉堂文庫美術館）、待花軒図（出光美術館）、◎江天遠意図（根津美術館）、◎聴松軒図（静嘉堂文庫美術館）、◎山水図〈水色巒光図〉（当館）、◎放牛図〈文成外史筆〉（京都国立博物館）、◎湛碧斎図〈愚極礼才筆〉（香雪美術館）、山水図〈曾我紹仙筆〉（東京芸術大学）、承天寺境内図〈狩野松栄筆〉（個人蔵）、◎竹林山水図〈夏珪筆〉（畠山記念館）、◎山水図〈岳翁藏丘筆〉（正木美術館）、◎山水図〈李唐筆〉（高桐院）、◎柴門新月図（藤田美術館）、山水図〈竺雲等連贊〉（東京国立博物館）、◎秋景冬景山水図（金地院）、◎観瀑僧図〈芸阿弥筆〉（根津美術館）、山水図〈祥啓筆〉（個人蔵）、◎山水図屏風（大和文華館）、◎伝足利義政像（東京国立博物館）

六、寂境の神仏

◎十六羅漢図（東京国立博物館）、◎十六羅漢図〈良詮筆〉（建仁寺）、◎十六羅漢図（天真寺）、◎十六羅漢図（宝嚴寺）、十六羅漢図（浄土寺）、◎十六羅漢図（建長寺）、◎五百羅漢像〈林庭珪・周季常筆〉（大徳寺）、积迦三尊図（鹿王院）、积迦如来図（鎌倉国宝館）、◎地蔵菩薩図、◎如意輪觀音図（以上当館）、楊柳觀音図（円生院）、◎白衣觀音図〈海権賛〉（当館）、白衣觀音図〈伝月壺筆〉（大阪市立美術館）、◎白衣觀音図〈約翁徳儉贊〉（当館）、◎白衣觀音図（真珠庵）、◎觀音図（建長寺）、弁才天図（乾坤院）、布袋図〈榮賀筆〉（個人蔵）、◎達摩図（鹿苑寺）、◎達摩図（東京国立博物館）、◎天神図（古熊神社）、渡唐天神図〈雪舟筆〉（岡山県立美術館）



◎平家納経〈神力品〉（厳島神社）



◎北野天神縁起巻第七（北野天満宮）

1室 奈良の美術

【彫刻】◎西大門勅額（東大寺）、◎義淵像（岡寺）、◎法相六祖像のうち行賀像（興福寺）、◎俊乗坊重源像（淨土寺）、◎薬師如來像（元興寺）、◎十二神将像（東大寺）、◎千手觀音像（園城寺）、◎伝興福寺北円堂伝来四天王像のうち（当館・興福寺）、◎乾漆十大弟子像のうち目犍連・舍利弗（興福寺）、◎乾漆八部衆像のうち緊那羅像（興福寺）、◎半跏思惟像（神野寺）、◎觀音菩薩立像（法隆寺）、◎觀音菩薩立像（金剛寺）、觀音菩薩立像（当館）、◎薬師如來立像（般若寺）

【絵画】板絵補陀落山図・十一面觀音来迎図（海住山寺）

【書跡】◎紫紙金字光明最勝王経・華手経巻第十二（以上当館）

【工芸】◎当麻曼荼羅厨子扉（当麻寺）

2室 阿弥陀淨土と觀音・地蔵信仰

【彫刻】◎阿弥陀如來像（淨土寺）、阿弥陀三尊像（峰定寺）、◎十一面觀音像（勝林寺）、◎十一面觀音像（藥師寺）、◎聖觀音像（觀心寺）、聖觀音像（当館）、◎千手觀音像（妙法院）、◎地蔵菩薩像（東大寺）、◎地蔵菩薩像（長命寺）、◎地蔵菩薩像（春覺寺）

3室 密教美術

【彫刻】◎梵天像、◎救脱菩薩像（以上秋篠寺）、大日如來像（元興寺町）、◎如意輪觀音像（当館）、◎虛空藏菩薩半跏像（北僧房）、◎不動明王像（正寿院）、◎愛染明王像（当館）

【絵画】両界曼荼羅（当館）

【工芸】古式三鉢杵、独鉢杵、三鉢杵、五鉢杵（以上当館）、◎密教法具（嚴島神社）、◎五鉢四天王鉢（弥谷寺）、◎五鉢三昧耶鉢（金峰山寺）、五鉢種子鉢、◎独鉢鉢、◎三鉢鉢（以上個人蔵）、五鉢鉢（当館）、◎宝珠鉢（個人蔵）、塔鉢（当館）、一面器・飲食器（西大寺）、◎鉄宝塔（西大寺）



◎諸尊仏龕

4室 インド・中国・韓国の彫刻

如來立像〈ガンダーラ〉、菩薩頭部ストゥッコ〈ガンダーラ〉（以上個人蔵）、仏伝図浮彫〈ガンダーラ〉（当館）、舍利容器〈クシャーナ〉（当館）、石像如來像、石像菩薩像、博製菩薩像〈北齊〉、◎諸尊仏龕〈唐〉（写真）、金銅菩薩像〈唐〉、金銅道教像〈唐〉、◎石造如來三尊像〈唐・宝慶寺伝来〉（以上個人蔵）、金銅如來立像〈統一新羅〉（光明寺）、金銅如來立像〈統一新羅〉（当館）

6室 本地垂迹の世界

【彫刻】◎木造八幡三神像（藥師寺）、◎金銅藏王權現像、木造男女神像（以上当館）

【絵画】◎板絵神像（藥師寺）

【工芸】◎十二尊鏡像（細見美術財団）、◎阿弥陀如來鏡像、◎藏王權現鏡像、男神對向鏡像（以上当館）

9室 古代の伽藍

【考古】百濟出土瓦（個人蔵）、高句麗出土古瓦（当館）、法隆寺出土古瓦（法隆寺）、大阪新堂廃寺出土古瓦（大阪府教育委員会）、山田寺出土古瓦（奈良国立文化財研究所・橿原考古学研究所）、川原寺出土古瓦（奈良国立文化財研究所）、法隆寺出土古瓦（法隆寺）、本藥師寺出土古瓦（個人蔵・当館）、岡寺出土古瓦（当館）、岡寺出土古瓦（火雷神社）、河内寺出土古瓦（大阪府教育委員会）、大官大寺出土古瓦（奈良女子大学・当館）、興福寺出土古瓦、平城京跡出土古瓦（以上当館）、東大寺出土古瓦（個人蔵・当館）、唐招提寺出土古瓦（唐招提寺）、山村廃寺出土蓮華文鬼瓦（個人蔵）、奥山久米寺出土蓮華文鬼瓦（京都国立博物館）、中山瓦窯出土鬼瓦（当館）、秋篠寺出土鬼瓦、◎大安寺出土鬼瓦（写真）（以上個人蔵）、橘寺出土方形三尊壇佛（当館）、川原寺裏山出土方形三尊壇佛（明日香村）、南法華寺出土方形三尊壇佛（南法華寺）、天花寺出土壇佛、定林寺出土塑像頭部（当館）、川原寺裏山出土塑像頭部（本藥師寺）



◎大安寺出土鬼瓦

10室～11室 積迦・法華経の美術

【彫刻】積迦如來立像、◎清涼寺式積迦像（当館）、◎銅板法華說相図（長谷寺）

【絵画】法華經曼荼羅、法華經曼荼羅（以上当館）、普賢菩薩像（長谷寺）

【書跡】◎法華經序品（宝嚴寺）、法華經卷第一（当館）

【工芸】百万塔・無垢淨光經陀羅尼経、錢弘俶八万四千塔、宝篋印塔（以上当館）、◎透影舍利容器（西大寺/写真）、◎火炎宝珠形舍利容器（海龍王寺）、◎五輪塔形舍利容器（淨土寺）、◎金銅透影經筒（万德寺）、金銅經筒（施福寺）

【考古】◎金峯山經塚出土鍍銀經箱（金峯神社）、粉河経塚出土銅經筒、陶製外筒、粉河経塚出土紙本墨書法華經（当館）、◎長安寺銅板法華經（長安寺）、福岡・飯盛山瓦経（当館）



◎透影舍利容器（西大寺）

12室 禅の美術

【絵画】十六羅漢像（宝嚴寺）、五百羅漢像（大徳寺）、水月觀音像、牧牛図（以上当館像）

13室 正倉院宝物模造

新羅墨、筆、黒漆三合鞘刀子、紫檀把黑漆二合鞘刀子、斑犀把白牙鞘金銅莊刀子、紫檀把牟久木鞘金銅莊刀子、金銀莊大刀、黒作大刀、火舎、檜和琴、子日手辛鋤・粉地彩繪倚几、子日目利簾・粉地彩繪倚几、紅牙撥鏤尺、紅牙撥鏤尺、綠牙撥鏤尺、紅牙撥鏤尺、紺牙撥鏤葵子（以上当館）

平成10年度をふりかえる

資料管理研究室長 西山 厚

①東新館と地下回廊がオープン

4月に東新館がオープンしました。これによって展示面積は従来の1.7倍、収蔵庫の広さは1.4倍になりました。かつての新館（西新館）と連結されており、その連結部分がエントランスになっています。入口には聖武天皇が「奈良国立博物館」と書いてくれています。地下回廊のミュージアムショップも人気。わざわざ東京からグッズを買いに来る人もいるほどです。「元気がでる仏像えんぴつ」は私のネーミング。仕事に（人生に）疲れた人は、ためしに使ってみてください。

②東新館開館記念特別展「天平」 4月25日～6月7日

天平時代は、人々の胸に良いものを造ろうとするエネルギーがすさまじく高揚した時代です。この展覧会は「天平のすべてがわかる、最初で最後の大天平展」。とくに東新館に林立した天平彫刻は圧巻でした。特別企画「天平のひびき」（正倉院に伝わる楽器を復元して演奏するコンサート）も好評でした。



③ブッダ展 7月11日～8月30日

「ブッダ」とは目覚めた人という意味で、一般にはお釈迦さまのことを指します。この展覧会は、仏教の広がりとともに、インド・パキスタン・東南アジア・中国・韓国・日本において、ブッダの姿がそれぞれどのように造形されたかを見るもの。地域や時代によってブッダの姿がさまざまに違うことがよくわかり、楽しい展覧会でした。

④久しぶりの夏季講座 7月22日～24日

工事のために2年間休んでいた夏季講座を久しぶりに開催しました。テーマは「ブッダ」。講座の内容は、ブッダの生涯とその思想（鎌田茂雄先生）、インドにおけるブッダの造形（定金計次先生）、中国におけるブッダの造形（東山健吾先生）、東南アジアにおけるブッダの造形（浅井和春先生）、日本人とブッダ（山折哲雄先生）、日本におけるブッダの造形（田辺三郎助先生）、日本におけるブッダの絵画的表現（中野玄三先生）といったもの。最高のメンバーによる最高の講座でした。東京から車を運転して来られて東山先生は、自宅に上着をお忘れに。「上着なしで結構です」と申し上げたのですが、「受講者の方々に失礼にあたる」とおっしゃって、わざわざ奈良で上着を購入されました。講義も時間を延長して美しく珍しいスライドをたくさん見せて下さいました。僅かな御礼しかできないのですが、このように全力投球される講師の方々のおかげで素晴らしい講座になりました。

⑤特別展観「百濟観音」 9月8日～10月4日

ルーブル美術館からの帰国展。百濟観音1体だけの展覧会。会場の照明ができるだけおとし、ケース内の微妙な明かりだけで百濟観音を御覧いただきました。ケースから少し離れ、長い時間ひとりで黙って見つめている女性の姿が目立ちました。

⑥第50回正倉院展 10月24日～11月9日

昭和21年（1946）に始まった正倉院展が第50回の記念の年を迎えました。50回を記念して例年以上に名品がたくさん出陳され、赤漆文欄木御厨子・聖武天皇の宸筆「雑集」・漆胡瓶などの宝物に多くの方々が見入っておられました。

⑦特別展「東大寺文書の世界」 2月23日～3月31日

約1万点の東大寺文書が国宝に指定されたことを記念する展覧会。古文書ばかりが並ぶ初めての特別展でした。1点ずつにわかりやすい解説と釈文（読み）をつけるなど、少しでも親しめるように工夫をしましたが、やはり文書は難しい…。それでも、1日平均の入館者数は、昨年の同じ時期の特別展「東洋絵画の精華」を上回り、図録もよく売れました。生徒と一緒に3時間もかけて見てくれた富雄高校の山本先生、ありがとうございます！

⑧入館者の総数

平成10年度の入館者の総数は498,968人。これは昭和63年（1988）の677,018人、昭和55年（1980）の529,979人について、史上3番目。大入りでした。東新館のオープンにより、新館と本館を同時に臨時休館せずにすむようになったことも入館者数の増加につながりました。



⑨ごあいさつ

3年間、普及室長として広報業務を担当し、この「奈良国立博物館だより」の編集もおこなっていました。その間、「1歳7ヶ月のあかねと天平展を見た」「不思議な仏足石」など、従来の奈良国立博物館には見られない文章を意識して書き続けました。励ましのお手紙をくださった方々、コピーして友人知人にまで配ってくださった方々、ありがとうございます。次号から編集担当者が変わります。次号からもよろしくお願い致します。

◆公開講座 特別展「聖と隠者 山水に心を澄ます人々」に関連するものです。

5月1日(土) 忘れられた隠者 -敦煌の民衆詩人・王梵志- 奈良女子大学教授 松尾良樹
5月15日(土) 描かれた隠者の住まいと暮らし 美術室長 中島 博

いずれも午後1時30分より3時まで。講堂にて。聴講無料。ただし先着200名。

◆ギャラリートーク 毎月第2水曜日に実施しています。

4月14日(水) 密教法具 学芸課長 阪田宗彦
5月12日(水) ぶつぞう入門 仏教美術研究室長 松浦正昭
6月9日(水) 海住山寺の板絵 美術室長 中島 博

いずれも午後2時より。本館陳列室にて。入館者の聴講自由。

◆親と子の文化財教室 小学5・6年生と中学生、その保護者を対象にした教室です。

今年度は「平安時代の歴史と美術」(第2クール)をテーマに勉強します。

5月8日(土) 現地見学(東寺)／6月12日(土) 平安時代の彫刻／7月10日(土) 平安時代の絵画
8月14日(土) 「室生寺展」見学／9月11日(土) 現地見学(平等院)／10月9日(土) 最澄と空海は
どんな字を書いたのか／11月13日(土) 経塚 -お経のタイムカプセル／12月10日(土) まとめ

ハガキに氏名・住所・郵便番号・学校名・学年・電話番号・同伴する保護者の氏名・参加を希望する月日(いくつでも構いません)を記入して申し込んで下さい。参加料は無料ですが、見学料金が必要なことがあります。定員は200名(先着順)です。

◆夏季講座

〈テーマ〉室生寺 〈日程〉7月21日(木)～23日(金)

詳しい内容は「国立博物館ニュース」6月号に掲載する予定です。

募集要項は当館の受付けで6月中旬から配布しますが、郵送希望の方は「夏季講座要項希望」と明記し、返信用封筒(80円切手貼付、宛名明記)を同封して普及室までご請求ください。郵送は6月中旬になります。

◆ボランティアによる解説

ボランティアによる解説を展示室でおこなっています。

解説は、開館日の10:00～11:00～14:00～15:00～の4回(約30分間)を予定しています。4月からは新たに“プレ見学講座”が始まります。修学旅行などで奈良を巡る前にお聞きいただくと便利な講座です。コンピューター画像などで仏像観賞の基礎知識を解説する「ぶつぞう入門」(30分)と、東大寺や法隆寺など寺院別の解説6コース(5分～15分)が用意されており、自由に組合わせることができます。予約をすれば、講堂または学習室でボランティアが画面に合せて解説をします。お問合せは学習普及専門官(電話0742-22-7008)まで。

開館時間 午前9時より午後4時30分まで(入館は午後4時まで)

休館日 月曜日(月曜日が祝日または振替休日の場合は開館し、翌日が休館。ただし順延あり)

観覧料金 每月第2・4土曜日は、小・中学生無料

特別展	大人	高・大生	小・中生
一般	830円	450円	250円
団体	560円	250円	130円

*団体は責任者が引率する20名以上。

*特別展料金で平常展もあわせて観覧できます。

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒(80円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館の普及室にお申し込み下さい。

〒630-8213 奈良市登大路町50 電話0742-22-7771 FAX0742-26-7218 テレfonサービス0742-22-3331 奈良国立博物館
ホームページ〈URL〉http://www.narahaku.go.jp/